

『筑波大学 FD ハンドブック』pp52-65 筑波大学教育 計画室 2000 年 3 月

第 3 章 授業実践事例

第 2 節 私の授業実践—医学

臨床医学系 庄司進一

臨床医学系に所属し医学教育者、神経内科の臨床家、医学と医学教育の研究者である私が現在筑波大学で行っている授業の内 didactic teaching (教壇から教官が一方的に知識を伝授する旧来型の教育方法) 以外の教育実践の概略を記載する。

1. 医療従事者のための教育に必要なもの

医療従事者は医療に携わる者であるので、その教育には医療を遂行するに必要な知識と技能が必要である。さらに「患者の幸せの追求」という医療の目的に向かって持てる知識と技能を使って、全力を注ぐ使命感や態度が必要である。これは医療の主人公である患者に対する態度や習慣、医療という天職(この言葉はだんだん使われなくなってきた、ないし理解する人が少なくなってきた)に対する使命感や態度、医学という学問に対する態度とも言える。この態度・習慣(情意領域 affective domain)の教育は大切であるが、一番ないがしろにされてきたとも言える。それは教育することが大変に難しいと考えられてきたことや、特に教育する必要がなく師の背を見て自ら獲得するものとの考えや、知識(認知領域 cognitive domain)や技能(精神運動領域 psychomotor domain)の教育を優先する考えのためである。急速な医学の進歩の結果、知識・技能の分量は比例級数的に増え、一人前の医療従事者になるのには何年も修行が必要になった。言い換えると知識や技能の大部分は学習者自らが自習により獲得するしかない気付かれるようになった。となると、意欲をもって必要な知識や技能を獲得しようとする態度・習慣が一番重要となる。

患者の幸せの追求という医療の目的を医療従事者の心の中心に根付かせることは、態度教育の中でも重要な目標の一つである。それには患者中心医療の教育とQOLの教育が適している。

2. 患者中心医療

患者中心医療は、医療者側から見れば、患者の社会的・経済的・心理的・知的精神的・身体的バックグラウンドを把握して、患者のもつ問題点を捜し出し、サイエンスとアートとヒューマニティを総合するプロとしてアドバイスし、患者の価値観に合い本人の決定に従った目標と方法でその問題を解決し、患者に満足してもらえらる診療を行い、更に死すべき人間として、死や老いや病いや障害と共にどう生きるかとの視点をもった医療である。

3. QOLの教育

患者の生活、人生、命の質の向上を目標にした医療は、言い換えるならば、患者の価値観に合った、患者の満足度を指標とする医療である。このQOLの教育は患者中心医療の教育とかなりの部分一致する。このQOL教育は医療者の態度・習慣の教育に大切な項目である。

4. これらの教育方法の特徴

- 1) 学生の参加を促す形態の教育方法である。
- 2) 討論、演習、ゲーム、ロールプレイなどが中心の教育方法である。
- 3) 知識伝達型でなく、自分から見つける発見型・選択型教育である。
- 4) 学習者の評価は客観テストではなく学習者の討論や書いた文章で行う。
- 5) 授業の評価は学習者やチューターの感想文やアンケートから行う。
- 6) 対象が医学生でなくとも、広く応用可能である。
- 7) 学習者の感想は、楽しい、有意義だといった賛同が大部分である。

5. 広い応用

医療者の教育に人間性の教育や患者中心医療の教育やQOL教育などが重要であるが、この教育方法として有用な「臨床人間学」は、人間を考える機会を通して、責任感や倫理感の教育としてあらゆる人々の教育に応用可能である。医学専門学群のみならず、全学や社会人対象の授業として実践している教育の実際を各論で記載する。

6. 各論

1) 医学専門学群で現在行っている授業の実例

a) テュートリアル「人間学入門」

[一般目標 (GIO, general instructional objective)]

医学生として円滑な勉学開始のために、医療の心を理解して勉学への意欲を持ち、学問の取り組み方を知ってそれに慣れる。

[具体的目標 (行動目標、SBOs, specific behavioral objectives)]

- (1) 情報から問題点を抽出する。
- (2) 自分の考えを分かりやすく話す。
- (3) 他者の考えに傾聴する。
- (4) 何を追求すべきかを決める。
- (5) 必要な情報を検索する。
- (6) 討議により結論を導く。
- (7) 研究の結果をレポートに書く。

[具体的方法 (学習方略、LS, learning strategies)]

対象 医学1年次 必須

時期 1 2学期

時間数 週1コマ 20週

テーマ 3週

グループ 10人ないし7人(10ないし14グループ)

グループに1人ないし2人の教官(チューター)が付く

[授業手順]

臨床医学や社会医学の生老病死に直接関連した判断を下す必要のある具体的な事例・場面・課題を提示する。

必要最小限の情報提示と質疑を行う。

少人数グループに分かれて問題点を抽出する。

問題点の解決方法の計画を立てる。

討議を重ね解決に迫る。

各自結論をレポートにまとめる。

全体討論会を行う。

[評価法(EV, evaluation)]

学生の評価は、討論・研究への貢献度とレポートをチューターが評価する。

コースに対する学生やチューターの評価は、アンケート調査で行う。

[平成11年度のテーマ]

脳死・臓器移植

高齢者介護

出生前診断・障害児出産

病気疑似演習

臨死疑似演習

人間は何故ミスを犯すか

b) 医学概論

[一般目標、GIO]

医学生としての自覚を養うために、興味をもったテーマを主体的に追求する習慣を身につける。

[具体的目標、SBOs]

(1) 医学に関する興味あるテーマを選ぶ。

(2) グループでそのテーマを自由討論する。

(3) 各自情報を収集する。

(4) 情報を基にさらに討論を重ねる。

(5) 研究をまとめ、中間発表する。

(6) 他のグループの発表を聴き、評価する。

(7) 研究をまとめ各自レポートを書く。

[具体的方法、LS]

対象 医学1年次 選択必須

時期 2学期

時間 週1コマ 10週

テーマ 各学生にとっては1つ

[授業手順]

テーマを提示する。

自由にその他のテーマも出してもらおう。

各自一つのテーマを選ぶ。

各テーマ毎にグループに分ける。

一つのテーマの希望者が10人以上になる場合はグループに分ける。

各グループはセミナー室に分かれ自由討論をし、毎週グループ毎に報告を出す。

第4週、第7週には各グループの中間発表会をOHPを用いて行う。

この発表はそれぞれ他の特定のグループで評価する。

第10週には各グループの最終発表会を行う。

この発表も他の特定のグループが評価する。

最終回には各学生にアンケートを書いてもらう。

各自がレポートを書き期限までに提出する。

[評価、EV]

学生は出席率とレポートから評価する。

授業は学生のアンケートから評価する。

[平成11年度のテーマ]

分子生物学の進歩が医学に与えたインパクト

情報科学の進歩が医学に与えたインパクト

人権・共生の思想が医学に与えたインパクト

地球環境破壊が医学に与えたインパクト

シシリー・ソンドース、エリザベス・キューブラー・ロス、マザー・テレサの三女性が医学に与えたインパクト

その他

c) アドバンストコース「人間関係論」

[一般目標、GIO]

医療者として人間関係を円滑に保つために、人間関係に関わる基本的要因を理解する。

[具体的目標、SBOs]

(1) テーマに関して自分の意見を述べる。

(2) 他者の意見に傾聴する。

- (3) 少人数討論を司会する。
- (4) 討論概要を記録する。
- (5) 討論概要を報告する。
- (6) 自分の意見を文章にする。

[具体的方法、LS]

対象 医学3年次 選択必須

時期 3学期

時間数 5コマ 日に1コマ 5日

人数 1グループ 7人位

[授業手順]

テーマについての今日的、我が国的問題点を事例とともにあげ、それについての代表的意見を述べる。

質疑を行う。

少人数グループに分かれ、司会者、記録係、報告係を互選し、自由討論を行う。

全体が集まり、報告係が各グループの討論概要を報告する。

全体討論。

教官も個人的な意見を簡潔に述べる。

学習者は自分の意見を文章として提出して授業を終える。

[評価法、EV]

学生は討論参加率と意見文の提出率から評価する。

授業は学生の授業に対する感想文から評価する。

[平成11年度テーマ]

家族

性

世代

教育

愛

d) アドバンストコース「コミュニケーション論」

[一般目標、GIO]

医療者として色々な人とのコミュニケーションを円滑にできるために、コミュニケーションの基本を理解する。

[具体的目標、SBOs]

- (1) 討議による結論と、一人で考えた結論を対比する。
- (2) 言語によるコミュニケーションの重要性を記述する。
- (3) 非言語によるコミュニケーションの重要性を指摘する。

- (4) コミュニケーションにおける傾聴の重要性を述べる。
- (5) 医療の現場でのコミュニケーションをロールプレイで演じる。
- (6) 少人数討論の司会をする。
- (7) 討論の概要を記録する。
- (8) 討論の概要を報告する。
- (9) 自分の意見・感想を文章にする。

[具体的方法、LS]

対象 医学 4 年次 選択必須

時期 2 学期

時間数 5 コマ 日に 1 コマ 5 日

人数 1 グループ 4 5 人

[授業手順]

ゲーム・演習・ロールプレイの内容を説明する。

質疑を行う。

各グループに分かれゲーム・演習・ロールプレイを行う。

それぞれのグループで司会、記録係、報告係を決め討論する。

全体が集まり、報告係が討論の概要を報告する。

全体討論。

教官が個人的な意見を簡潔に述べる。

各自の意見を文章にして提出して授業を終える。

[評価法、EV]

学生はグループ討論参加率と意見・感想文の提出率で評価する。

授業は学生の授業に対する感想文から評価する。

[平成 1 1 年度テーマ]

コミュニケーション・ゲーム「漂流脱出テスト」

演習「同一の文章を読んで各種の感情を表現する」

演習「一言の挨拶で各種の情報を伝える」

演習「聞き手の傾聴と上の空」

ロールプレイ「医療現場での各種の場面」

e) ターミナルケアのロールプレイ

[一般的目標、GIO]

良き医療者となるために、ターミナルケアの精神を理解する。

[具体的目標、SBOs]

- (1) ターミナルケアの場面設定でロールプレイを演じる。
- (2) ロールプレイを演じた感想を述べる。
- (3) ロールプレイを観て意見を述べる。

(4) ロールプレイの感想を文章にする。

[具体的方法、LS]

対象 医学6年次 3学期 必須

時間 連続2コマ(2時間30分)

[授業手順]

ターミナルケアの場面設定をOHPで説明する。

質疑を行う。

配役を決める。

教室の前面でロールプレイを演じる。

各配役の感想を述べてもらう。

フロアを含め全体で討論する。

教官のコメントを簡潔に述べる。

配役を再び決め、ロールプレイを再度行う。

各配役の感想、全体討論、教官のコメントで1コマを終える。

2コマ目も別の場面設定で1コマ目と同様にロールプレイと討論を行う。

学生各自に感想文を書いてもらい提出して授業を終える。

[評価法、EV]

学生の感想文で学生の評価と授業の評価を行う。

[平成11年度テーマ]

ロールプレイ1 「医療者への怒り」：死を受容できない患者が医療者に怒りをぶつける、霊的ケア (spiritual care)

ロールプレイ2 「子供への告知」：7歳と9歳の子供に母の死が近いことを告知する、家族ケア、小児の死の認識

f) 専門外国語 (英語) "Molecular Biology of The Cell" 読書会

[一般目標、GIO]

優れた自然科学の研究者や臨床家となるために、英語で書かれた自然科学の書籍を理解する。

[具体的目標、SBOS]

(1) 生物学の基礎を英語で読む。

(2) 自分の担当部分を分かりやすい日本語にする。

(3) 他者の担当部分を日本語で聴き、疑問点を質問する。

[具体的方法、LS]

対象 医学生全学年 通年 選択必須

時間 週1回(1時間) 最大年30回

[具体的手順]

"Molecular Biology of The Cell" (3rd Edition)の各 Chapter は2 9の節に分

かかれている。その1節は4 19の小見出しに分かれている。各章の1節を
通年で読んでいく。一人の学生に1つの小見出しづつを学生が自主的に割り当
てる。

読書会では、各学生が自分の担当の小見出しの部分を日本語で訳を述べる。対
応する図表の説明もする。

他の学生はそれを聴き質議を行う。

全部で24章なので毎回1章近く進めば、1年で各章の1節づつを読み終わ
ることになる。

[平成11年度]

各種の事情で年21回の予定で、12月末まで(16回)で14章まで進んで
いる。

[評価、EV]

出席率で学生を評価する。

授業は学生のアンケート・感想文で評価する。

g) コロッキウム「神経症状の症例」

[一般目標、GIO]

優れた臨床家・医学研究者になるために、臨床神経学の基礎を身につける。

[具体的目標、SBOs]

(1) ある神経症状を主たる症状とする患者に対する対応を自習したり、プリ
ントを作成する。

(2) 患者を演じる教官から面談で情報を得、まとめて述べる。

(3) 患者を演じる教官を診察し情報を得、まとめて述べる。

(4) 面談と診察から診断をあげる。

(5) 患者やその家族を演じる教官から診断検査についてのICを得る。

(6) 診断検査の結果から治療法を述べる。

(7) 患者を演じる教官から治療法についてのICを得る。

(8) 医師を演じる学生にアドバイスをする。

[具体的方法、LS]

対象 医学4年次 必須

時間 6コマ

[具体的手順]

担当学生グループ(4 5人)に授業のやり方を説明し、授業のビデオを紹介
し、自習すべきことを話す。

自習した結果を学生グループは簡単なプリントにまとめる。マスプリの前に教
官が内容をチェックする。

プリントは授業の開始時に参加学生に配付する。

患者や医師の環境条件などを教官が説明する。

患者役やその家族役や他の医療者役を教官が演じる。

主治医役を学生が演じる。

○ ルプレイを中断して、観ている学生の発言や質議を行う。

問診、診察、説明、検査、説明、治療の順に診療のシミュレーションを行う。

授業の最後に教官がコメントする。

[評価、E V]

学生は記述テストで評価する。

授業は学生の感想文で評価する。

[平成 1 1 年度のテーマ]

運動麻痺の症例 (重症筋無力症)

感覚麻痺の症例 (多発単ニューロパチー)

小脳失調の症例 (Wernicke-Korsakoff 症候群)

不随意運動の症例 (パーキンソン病)

自律神経障害の症例 (糖尿病性多発ニューロパチー)

大脳高次機能障害の症例 (脳血管障害による失語症)

2) 医療技術短期大学部で現在行っている授業の実例

a) 神経病態学

[一般目標、G I O]

良き看護師になるために、神経系の働きとその病態の基礎を理解する。

[具体的目標、S B O s]

(1) 神経系は6つの系統に分けられることが言える。

(2) それぞれの系統の働きを記載する。

(3) それぞれの系統の病態を述べる。

(4) グループで各自の分担を決める。

(5) 調べたことを分かりやすく発表する。

[具体的方法、L S]

対象 看護学科1年次 必須

時期 3学期

時間 4コマ

1グループ 13人位

1グループ 1テーマ

[具体的授業手順]

授業のオリエンテーションをする。

最初の授業でグループ分けを発表し、各グループのテーマのプリント配付する。

各グループに分かれ、テーマ内の分担を自主的に決める。

第2、3、4回目の授業はそれぞれ2テーマずつの発表会を行う。

質疑の後、教官が補足を行う。

[評価、E V]

学生は記述テストで評価する。

記述テストと同時に感想・印象をイラスト入りで書いてもらい、授業を評価する。

[平成11年度のテーマ]

錐体路系

錐体外路系

小脳系

感覚系

自律神経系

大脳高次機能系

各テーマに約13位のそれぞれの系の解剖・機能・病変・症状・検査・治療・看護などの小テーマをつける。

b) 生命倫理

[一般目標、G I O]

良き看護師になるために、生命倫理の基本的考え方を理解し、自分の価値観の確立に努める。

[具体的目標、S B O s]

(1) 看護師の仕事の中の倫理的問題をあげる。。

(2) 他者の意見に傾聴する。

(3) 自分の考えを分かりやすく話す。

(4) 討論を司会する。

(5) 討論の概略を記録する。

(6) 自分の考えを文章にする。

[具体的方法、L S]

対象 看護学科2年次 必須

時期 3学期

時間 週1コマ 10コマ

1グループ 8人

教室とその周辺の10のセミナー室を使用

グループは3回位で入れ替え

[具体的授業手順]

毎回教室で全員に課題をプレゼンテーションする。

課題は具体的臨床場面や症例で、倫理的判断を質問する形式。
課題とともに、代表的意見とその理由、判断に必要な情報を提示する。
質疑を行う。

各グループに分かれ自由討論する。
討論の概略をグループ毎に提出する。
各自が自分の意見を文章として提出する。
最終回にはアンケートを書いてもらう。

[評価、E V]

学生の評価は出席率と毎回の提出文から評価する。

授業は学生のアンケートから評価する。

[平成11年度のテーマ]

未成年者の妊娠

幼児虐待

代理母

臓器移植

地球環境破壊

リビング・ウィル

男女産み分け

積極的安楽死

クローン動物

不妊手術

c) 臨床病理学総論 神経検査

[一般目標、G I O]

よき臨床検査技師となるために、神経検査の基本を理解する。

[具体的目標、S B O s]

- (1) 神経検査の種類を挙げられる。
- (2) 神経検査の原理を言える。
- (3) 神経検査の適応を言える。
- (4) 各種神経検査の利点・欠点を言える。
- (5) 神経検査の倫理的側面を挙げられる。
- (6) 分かりやすい発表をする。
- (7) 他のグループの発表を評価する。

[具体的方法、L S]

対象 臨床技術学科1年次 必須

時期 3学期

時間 2コマ

1 グループ 7人

6 グループに分かれ、1 グループ1 テーマ

[具体的授業手順]

1 コマ目に授業のオリエンテーションを行い、グループ分けと各グループの分担を発表する。各グループに分かれ、自主的にテーマ内の分担を決める。

2 コマ目は各グループの発表会をプリントなどを用い各学生が教壇から行う。

他の特定のグループが発表の評価をする。

質疑の後、教官は補足説明をする。

[評価、E V]

学生の評価は記述テストで行う。

授業の評価は記述テストと同時に書いてもらうイラスト入りの感想文で行う。

[平成11年度テーマ]

神経生理学的検査 1 脳波、誘発脳波

2 筋電図、伝導速度

神経画像検査

神経病理学的検査

神経生化学的検査

神経分子生物学的検査

3) 医科学研究科で現在行われている授業の実例

a) ターミナルケア学

[一般目標、G I O]

医学・医療の本質を学ぶために、末期患者のケアを通し死と向き合った医療の精神を理解する。

[具体的目標、S B O s]

(1) ロールプレイを通してターミナルケアの現場での問題点を考える。

(2) 末期患者のケアの問題点を挙げる。

(3) 死についての各種の考えを述べる。

(4) 死について自分の考えを分かりやすく述べる。

(5) 他者の意見に傾聴する。

(6) 討論の司会をする。

(7) 討論の概要を記載する。

(8) 自分の考えを文章にする。

[具体的方法、L S]

医科学研究科学生 選択必須

時期 3 学期

時間 10 コマ 内2 コマは医学専門学群の医療総論のターミナルケアのロー

ルプレイと共通授業、他の2コマは緩和ケア専門家の授業、残りの6コマについて以下に記載する。

[具体的授業手順]

死についての課題を提示する。

いずれも直ちに自分が判断を下す必要がある具体的な場面を想定しての設問である。

代表的な意見とその主な理由を提示し、質疑の後、少人数グループの自由討論を行う。

司会記録係を互選し、毎回グループ討論の概要と各自の意見を提出してもらう。最終回にはアンケートを書いてもらう。

[評価、E V]

学生は出席率と感想文の提出率で評価する。

授業は学生のアンケートで評価する。

[平成11年度テーマ]

家族の死

自分の死

安楽死

他人から見た私の死

告知後

死にまざる命

b) 高齢者医療概論 高齢者疑似演習

[一般的目標、G I O]

高齢者のもつ特徴を理解し、高齢者医療の基本的問題点に対する理解を深める。

[具体的目標、S B O s]

(1) 自分が高齢に達した演習を通して、高齢者のもつ特徴に気付く。

(2) 自分の意見を分かりやすく話す。

(3) 他者の意見に傾聴する。

(4) 自分の意見を文章にする。

[具体的方法、L S]

対象 医科学研究科学生 選択必須

時期 3学期

時間 高齢者医療概論の最後の授業1コマ

[具体的授業手順]

比較的健康的な悠々自適の83歳の独居老人として演習を開始する。

1年間間に起こる色々な出来事の後、老人病院にいる。

今入院中の感じとこれからの計画について自由討論する。

各自の感じることや計画を文章にし提出する。

[評価、E V]

学生は文章で評価する。

授業は学生のアンケートから評価する。

[平成 1 1 年度テーマ]

高齢疑似演習

4) 全学を対象で現在行われている授業の実例

a) 総合科目 臨床人間学

[一般目標、G I O]

社会人としての倫理感と責任感をもつために、人間についての理解を深める。

[具体的目標、S B O s]

(1) 生老病死に関する判断を情報の中から考える。

(2) 自分の考えを分かりやすく話す。

(3) 他者の意見に傾聴する。

(4) グループ自由討論を司会する。

(5) 討論の概要を記録する。

(6) 討論の概要を発表する。

(7) 自分の意見を文章に書く。

[具体的方法、L S]

対象 全学 1、2 年次生 選択必須

時期 通年

時間 週 1 コマ 3 0 週

使用できるセミナー室の数でグループ数は 2 2

1 グループの人数は 1 4 5 人

グループの構成は学期毎に専攻や性などが平均するように換える

[具体的授業手順]

全員の集合した教室で、生老病死に直接関する判断を下す必要のある具体的場面の提示する。

その判断に必要な情報を開示する。

代表的な意見とその主たる理由を説明する。

質疑を行う。

各セミナー室に分かれ、司会・記録・報告係を互選し自由討論を行う。

教室へ戻り、討論の概要を一部のグループは報告する。

各グループの討論概略の報告書と討論参加学生名を提出する。

全体討論を行う。

教官が個人的意見を簡潔に述べる。

各自が自分の意見を出席票の裏に240字位の文章で書き提出する。

夏休みにはボランティア体験ないし高齢者の話を聴く体験をレポートとして提出する課題を出す。

[評価、E V]

学生は討論参加と意見文と夏休みのレポートから評価する。

授業は学生のアンケートから評価する。

[平成11年度テーマ]

代理母

老人讃歌

人工呼吸器

安楽死

第二児

老齡疑似演習

意識障害

臨死疑似演習

無脳児

寝たきり老人

病氣疑似演習

高瀬舟

同性愛者

障害児

脳死

臨死患者

痴呆老人

尊厳死

引退後

家族の死

男女産み分け

核家族化

A I D S

自分の死

コピー動物

骨折手術

死の意義

人生の意義（講演）

人生の意義

5) 社会人を対象で現在行われている授業の実例

a) 公開講座 臨床人間学

[一般目標、G I O]

社会人としての倫理感と責任感をもち生きがいを感じるために、人間について理解を深める。

[具体的目標、S B O s]

- (1) 生老病死から人間を考える。
- (2) 自分の意見を分かりやすく述べる。
- (3) 他者の意見に傾聴する。
- (4) 討論を司会する。
- (5) 討論の概略を記録する。
- (6) 討論の概略を報告する。
- (7) 自分の意見を文章にする。

[具体的方法、L S]

一般社会人からの自由参加（有料） 大学の公開講座

時期 春 4 5 月

週 2 時間 18:00~20:00 5 回

[具体的授業手順]

教室で生老病死に直接関するすぐに判断を下す必要がある具体的課題を提示する。

代表的意見とその理由を提示する。

判断に必要な情報を開示する。

質疑をする。

少人数グループに分かれ、司会・記録・報告係を互選して自由討論する。

教室に集まり、グループ討論の概要を報告する。

全体討論する。

教官の個人的意見を簡潔に述べる。

各自の意見を文章に書き提出する。

[評価、E V]

学習者は出席率で評価する。

授業は学習者のアンケートで評価する。

[平成 1 1 年度テーマ]

生
老

病

死

生きがい

7. 最後に

紙屋克子教授と私の二人が行っている全学対象の総合科目「臨床人間学」は326名の選択学生があり、現在筑波大学最大の規模となっている。この授業は全学学類専門学群代表者会議と教育課程専門委員会の行った筑波大学の学生の投票により1999年筑波大学最優秀総合科目に選出された。

この節で記載した授業に参加した学習者の多くが教育の趣旨・方法に賛同している。好奇心に溢れ、興味あるものを追続けている多くの若者達にとって、こうした教育が大きな喜びであり、求めているものであった。テレビと漫画とインターネットの中で育っている現代の若者が、楽しいとこの授業に入り込んでくるのは、会話のもつ魅力・人間に関する関心が人間の本能に基づいているからであろう。

参加型の教育が教壇から一方的に知識を伝授する旧来の教育方法より選択的・発見的アプローチで教育的に採算性が高いのは確かなようである。

臨界事故、手術患者取り違え事故、新幹線トンネルコンクリート落下事故など20世紀末の我が国にとって専門家・技術者になる者の倫理観や責任感の教育は緊急性が高い。臨床人間学はこれを目指した教育方法である。今後大学生から高校生、中学生、小学生、幼児教育へと対象を広げていきたいと考えている。